

# スマイルタイムズ

## 猛暑と豪雨と食

平成20(2008)年9月25日(木)発行

発行者 小浜市多田2-2 中山クリニック 院長 中山茂樹

http://www.nakayama-clinic.jp

小児科 医師 中山 真里子

さすがにあの猛暑の今夏も“暑さ寒さも彼岸まで”の言葉通り不思議にこのところ朝晩涼しく爽やかな空気が秋が感じられますが昼間の空にはまだ夏の雲が見られ、春や秋がなくなってしまうのかと心配になります。

異常気象といえば最近の雨の降り方は尋常ではなく、もはや“バケツをひっくり返したような”という形容では済まされなくなりました。9月第1土曜日、息子の小学校の運動会（のため診察をお休みさせて頂きご迷惑をおかけしました）の時のことです。午前中は青空の下、無事終了し、お昼ご飯を食べ終えた頃から、急に雲行きが怪しくなり、ポツンポツンときたなと思ったら、みるみる間に空は黒い雲に覆われあたりが暗転、すさまじい降り方になりました。傘は用をなさず、テントからは出られない状態となり、校庭は川のように濁流が流れ始めました。しばらくでむし暑さと共に青空が戻りましたが、午後の部は中止となりました。同日、運動会が行われていた市内の他校は雨の影響はなくそのまま続行できたそうで、初めて体験した局地的ゲリラ豪雨でした。（それにしてはゲリラとはぴったりの表現です。）

さて、今夏の猛暑にしても、この運動会中の豪雨にしても、どうも人間がもたらした文明の発達が誘因ではないかとは思われますが、としても天災なので怒りは感じず、多少の恐怖と驚きの方が強かったものでしたが、食の安全を脅かすこの頃の事件はそうはいきません。食欲の秋なのに無邪気に何でも手にするわけにはいなくなりました。今や、居ながらにして全国各地、いや世界中の物が手に入る豊かな食生活、アルミの食器に先割れスプーン、まずい脱脂粉乳を鼻をつまみながら飲んだ戦後の給食からは比べ物にならない今の学校給食、食べたことのないようなメニューまでで豊かな給食、まさに雲泥の差です。また、スーパーやコンビニに行けば便利な冷凍食品、レトルト食品が並んでいます。それだけに先ず何より安全第一でなければなりません。

安全を手に入れるには不便を覚悟しなくてははいけません。作り手の顔が見える食品にまさるものはありませんが、忙しい現代人の生活ではつい食も全部自分の手作りというわけにはいかず、仕事の分担と言った感じで他の人に任せざるを得ないものなのでしょう。その結果、犠牲にするものは健康そして命というのは悲しすぎ

ます。国民の食、健康、命を守る使命を忘れたような他人事のような官僚、政治家、金儲けばかりに走る企業、この人達に“心”を求めるのは無理なのでしょう。

今年の秋はあの猛暑を思い出しながら、食欲はほどほどにして、夜空を眺め、澄んだ空気、昔と変わらぬ星の輝きにしばし世の憂いを忘れることにしましょう。

ひとの暖かさに触れた 保育士 宮本 祐子

今年は4年に一回のオリンピックイヤーでした。スポーツ好きの私は今回もまたTVに夢中になって見ました。

そういえば昔、オリンピックの年、生後3ヶ月だった娘が夜中になると目をパッチリあけて起きていて、朝方からお昼までぐっすり寝るものだから、娘と一緒に夜通しオリンピックを観ていたのを思い出します（勿論、娘は覚えていませんが…）。その娘も今回で4度目のオリンピックの年を迎えました。時の経つのは早いものですね。歳を取っている積もりはない私ですが、子供の年齢を思うと悲しいけれど確実に年齢を重ねています。

そんな私も若狭町に嫁いで23年、お陰様で気の合う友達もできて、今年の年初めに車で神戸へと出かけた時のことです。その帰り道、舞鶴のインターを下り国道へ向かって運転していた友達が“あー、どうしよう”と言ったかと思うと車の勢いがだんだん無くなりプスッ！と音がしてエンジンが止まってしまいました。山の中でGS（ガソリンスタンド）はありません。丁度、民家の前だったのでスタンドの場所を聞きに行くと親切に農機具に使うガソリンを出してきて分けてくれました。その時と言ったら嬉しいやら、申し訳ないやら。でも感謝の気持ちで一杯でした。とんだパニックでありましたが人の暖かさに触れた旅でした。

次はどんな旅になるでしょうか。

---

### 皆様 お願い

メディア（新聞、雑誌、放送など）を簡単に信じないで下さい。中身が何であれ（今話題の中国の毒入りのミルク、日本の汚染米の流通など）売ればよい、儲かればよい、という類のものが多くあります。どうしてそんな振り込め詐欺に逢うのだろうかとか、にせ投資にひっかかるのだろうかと思う人は多く居られますが、ゴロ雑誌の記事をそれなりに信じる人はかなりいらっしゃいます。その記事を話題にすること自体を止めて欲しいと思います。世間で話題にするからそんな記事を書いて売るのが現れ、売れて儲かるから止まないのです。そしてそれを脅しやたかりにする人も現れます。